

全国協議会 ニュース

2012年3月1日発行 第237号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク
推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4
KTビル3F
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

診療報酬改定速報

2年に一度の診療報酬改定内容が明らかになりました。造血幹細胞移植の関係では3点の改善がありました。

- 採取術及び移植術の増点。特にさい帯血の移植術が、骨髓や末梢血と同じ点数に(66、450点)
- 抗HLA抗体加算として4000点の新設
- 移植後患者指導管理料(3000点)の新設

これらは学会等の要望も踏まえて実現したものとされています。特にさい帯血の移植術については、2年に一度の診療報酬改定内容が明らかになりました。造血幹細胞移植の関係では3点の改善がありました。

●採取術及び移植術の増点。特にさい帯血の移植術が、骨髓や末梢血と同じ点数に(66、450点)

●抗HLA抗体加算として4000点の新設

●移植後患者指導管理料(3000点)の新設

これらは学会等の要望も踏まえて実現したものとされています。特にさい帯血の移植術については、2年に一度の診療報酬改定内容が明らかになりました。造血幹細胞移植の関係では3点の改善がありました。

灯火を大きな光に ハンラハン社長から市川会長に寄付贈呈

2月6日、プルデンシャル生命保険(株)・東京第一支社にて、箱根駅伝での骨髄バンク普及啓発活動に対する寄付金贈呈式が開催され、ジョン・ハンラハン社長から市川團十郎会長に目録が渡されました。

真つ赤な「骨髄バンク」ののぼりと白地にブルーの「プルデンシャル生命」ののぼりが交互に並ぶ。ハンラハン社長は「プルデンシャル生命」ののぼりが交互に並ぶ。ハンラハン社長は「プルデンシャル生命」ののぼりが交互に並ぶ。

ハンラハン社長は「プルデンシャル生命」ののぼりが交互に並ぶ。ハンラハン社長は「プルデンシャル生命」ののぼりが交互に並ぶ。



東日本大震災被災者支援基金

1月21日～2月20日 (合計7,934,124円)

プルデンシャル生命保険株式会社

現金	3,970,000円
移植者フットボールクラブ	現金 4,500円
釧路骨髄バンク推進協会	
(いのちの輝き展募金箱)	現金 6,164円

(敬称略)

給付累計件数 25件 合計3,976,650円

基金積み増しにご協力ください

●郵便振替 (通信欄に震災支援と記載)
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
00150-4-15754

●銀行の場合
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

沿道でののぼり掲出活動に参加くださった社員・ご家族の参加者数に乘じたご寄付をいただくようになって7回目になりました。今年は被災地の患者さんのために、例年の参加者を更に上回る397名の方が参加してくださりました。

学会の法整備検討進む

1月22日に第3回となる造血幹細胞移植学会の幹細胞移植法・幹細胞バンク検討会議が都内で開催されました。これは、造血幹細胞移植ならびに、骨髓バンク、さい帯血バンクを取り巻く環境が様々な課題を抱えている。そうした課題を個別対応するのではなく、包括的、網羅的に改善を図るためには、やはり根拠となるべき法律の整備が不可欠との認識の下、医学会の立場で検討を進めているものです。

課題としては公的なデータ・資料管理センター、公的な幹細胞バンク(財政基盤の確立)、迅速なドナー提供体制、移植施設の集約化、センター化などが求められること、が確認されました。

全国協議会事務所移転しました!

この度、1995年12月から活動の拠点としてきた新宿区愛住町を離れ、東神田に全国協議会事務所を移転しました。

入った当初は広々としたスペースだった愛住町の事務所も16年の長きに渡る活動により、保存資料等が膨大な量になり、所狭しとグッズや冊子が床に置かれ、毎月の理事会の度に荷物を移動させてもお、机の下に脚も入れられない状況となり、移動の運びとなりました。

荷造りしたダンボールを置いておくスペースもなく、2回に分けての引越が完了したのは2月8日。新事務所に運び込まれたダンボールは大小合わせて



新事務所で行われた2月理事会

さり、東日本大震災被災者支援基金にご寄付いただきました皆さんの熱い思いを患者さん方にお伝えしていきたいと思えます。本当にありがとうございます。

理事会メンバーの抱負



●森脇 豊理事

過去の会合では類似の法整備として、「臓器移植法」「がん対策基本法」などが成立した経緯などを学んできましたが、今回各政党がこうした動きをバックアップしていることや、学会としての意見書をまとめる動きになっていくことが判明し、近く関係機関宛ての正式文書として検討の俎上に載せることになりました。今後、議員立法での法制定を進めることから、学会のみならず患者、支援団体からの要望書提出も重要になると思われ

2012ありがとうさくら開花情報 その1

近畿ブロックの理事をさせていただいております、森脇 豊(37歳)です。前期から理事をさせていただき2期目になりました。普段は地元兵庫県で神戸骨髄バンクの和を広げる会の会員と

●残念!
今年も咲かなかった

沖縄では、2月中旬になると各地でさくらまつりが開催されます。沖縄の桜は、本土でよくあるソメイヨシノなどとは咲き方が少し異なるカンヒザクラ(寒緋桜)です。美しい房状に咲く花は濃いピンクで、1月から咲き始めます。桜といえば暖かくなると咲き始めると思うのですが、カンヒザクラは一番寒くなる頃から開花します。ですから、開花を告げる桜前線は一般的には日を追うごとに南から



お花見の風習も違っています。沖縄では木の下に座り込んで宴会をすることはありません。桜の花を見ながら散策するのが沖縄のお花見です。お花見には「花冷え」などといって寒いことがよくありますが、北の方では大雪や冷え込みが大きな話題の時、沖縄では気温20度時に汗ばみながらお花見をしています。

さて、3年前に非血縁者間の骨髄移植1万例とさい帯血移植5千例を記念して、沖縄県庁敷地内に植樹したカンヒザクラ、昨年までは咲きませんでした。沖縄県骨髄バンクを支援する会は2月11日の定例会後にお花見を予定していたのですが、記念樹は今年も花を咲かせてはくれませんでした。会員一同、来年こそは絶対に咲かせようと、何かできることはないかと思索をしています。(野村正晴)

第110回理事会報告

2月19日 全国協議会事務局(協議事項)

- 名義後援、承認案件
- 2012年全国骨髄バンクボランティアの集い、総会について
- あり方検討会中間答申を受けての対応について
- 東京の会通信238号記事の事実確認について
- 報告事項
- 財団関連
- 事務局移転について
- 共催事業について
- 東日本大震災被災者支援基金 受付・給付状況
- 白血病フリーダイヤル受付状況
- 佐藤きち子患者支援基金受付・給付状況
- ドナーサポートダイヤル受付状況

(今後の予定)
2012年3月18日 第111回理事会

ブロックセミナー報告

九州

みなさんご存じの鹿児島
西郷さんの銅像。その像の正
面にある昭和2年築の歴史あ
る鹿児島中央公民館で2月
4日に九州ブロックのセミ
ナーを開催しました。

ブロック内から7団体20人
患者家族1人、行政1人、そ
して協議会3人の参加があり
ました。

初めは「血液難病に関わる
福祉サービス・制度の紹介」
として地元の移植認定病院の
MSWから医療、障害年金、
障害手帳、税金控除などの制
度について学習しました。日
頃の疑問の解消になったの
ではと思います。

その後は各地の活動発表・
意見交換を行いました。各
団体とも資金、マンパワーに
苦勞しながらの活躍に目を
張る思いがしました。

ご息が再生不良性貧血だ
という親御さんからは、財団
の資料をデータベースとし
ご自身で解析された資料の発
表があり、九州地区は白血病
患者が多いながらもドナー登
録が少ないとするその結果に
驚きました。

夜は天文館で懇親会。さつ
まの黒豚料理、焼酎を堪能し
ました。



ていただけたいと思います。
(大田耕一郎)

近畿

1月28日、京都リサーチ
パーク1号館にて開催されま
した。

今回はNPO法人エス
ビュロー代表の安道照子氏
に小児がん患者・家族の支援
活動のスライドを交えて学習
会を行っていただきました。

代表をはじめ、がん子ども
もさんを亡くされた親たちが
中心となり、様々な取り組み
で、がんを乗り越えた子をサ
ポートしておられるとのこと
今回参加した各地の団体も、
それぞれ骨髄バンク啓発と患
者支援を行っている団体が多
いので、今回の話はそれぞれ
の団体にも非常に勉強になつ
たし、エスビュローのよう
な組織とも繋がりができたこ
とは非常に有意義であつたと
思います。

個人的に感じたことは、子
どもと大人ではがんを乗り越
えてからの問題が全く違うの
だなぁと。

医療は病気を治すだけでな
く、その後の生活、QOLを
上げていくことが課題なので、
医療従事者だけでなく、我々
ボランティアの活躍の場はま
だまだ残されているなあと感
じました。

最後に、会議室を無償で準
備下さったHLA研究所の佐
治先生に感謝申し上げます。
(森脇豊)

中国四国

2月11日、山口県宇部市の
ココランドで「中国四国ブ
ロックセミナー」が開催され
ました。

血液疾患患者の会・フェ
ニックスクラブ野村英昭会
長と、スノーボーダー荒井
daze善正さんの講演があ
り、野村さんが語られた患者
交流会でのエピソードと、
「患者と患者家族の思いは違
う」と言う言葉が印象に残り
ました。

荒井さんは慢性活動性EB
ウイルス感染症の闘病体験や
骨髄移植経験を、DVDの映
像を交えながら話され、来場
者の涙を誘いました。

各地報告では1年間の成果
を発表していただき、初参加
の「らいらっくの会(鳥根県)
の田中会長にはご自身の移植
経験とシンポジウム開催のこ



心からのご寄付に 感謝申し上げます

1月21日～2月20日

塩谷 圭	現金	2,000円
實野 真弓	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
株式会社北越ケーズ	現金	110,108円
イオン都城店	現金	16,094円
●佐藤さち子患者支援基金		
倉敷中央病院	現金	12,108円
倉敷中央病院	現金	5,560円
室蘭工業高等学校	現金	18,421円
		(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

2月11日、第3回移植者
フットボール大会を名古屋の
大洋薬品オーシャンアリーナ
で開催しました。移植経験者

とその友人、移植医療に携わ
る看護師の家族らが参加し、
フットボールを楽しみました。
また、会場では骨髄バンク登
録の啓発、被災患者支援募金
活動も行いました。



各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーJMDD (2月15日発行) より抜粋)

- 公益財団法人への移行認定について
財団は昨年9月26日に内閣府公益認定等委員会に、公益財団法人の認定申請を行い、審査の結果、本年1月20日付にて、「認定の基準に適合すると認めるのが相当である」と内閣総理大臣あてに答申が発出されました。これにより、本年4月1日に移行登記を行い、財団は公益財団法人として新たなスタートを切ることになります。
- 公益財団法人への移行に伴い、今年度の決算から「新・新会計基準」を適用します。この結果、特別会計の患者負担金等支援基金は、特別会計が廃止されるのに伴い、指定正味財産として一般正味財産と区分して管理されます。
- 非血縁者間末梢血幹細胞移植の実施について(第2例目)
本年1月に第2例目の非血縁者間末梢血幹細胞移植(PBSCT)が実施されました。
- 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について
公立大学法人和歌山県立医科大学附属病院が新たに認定されました。これまでに認定された施設は33施設です。
- 平成24年度「骨髄バンク推進全国大会」の開催について
平成24年9月15日(土)宮城県仙台市の太白区文化センター「楽楽楽(ららら)ホール」にて開催いたします。

骨髄バンク NOW

■1月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム / 1,600人、献血併行型集団登録者 / 2,090人、集団登録者 / 63人、その他 / 66人

◆日本骨髄バンクの現状(平成23年12月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,853	3,819	403,391	530,885
患者登録者数	228	227	2,966	34,869
骨髄移植例数	96	108	-	13,821
20歳未満ドナー登録者	-	250	16,824 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	320 ²⁾	190 ³⁾	26,075 ⁴⁾	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月～ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月～

入院中、彼は「早く学校へ戻りたい」と言っていた。一時退院はあったものの細菌感染の危険もあり、その願い叶わず、一度も学校へ来ることができなかった。

今もその生徒の気持ちを考えると胸が痛む。クラスメイトも、辛い思いをしていたようで、話をする度に、神妙な面持ちとなる。病気による苦しさ、辛さを考えると、こうやって生活しているだけでも十分と考えられるようになってきた。

その生徒達が3月1日に旅立つ。学校祭の一つのクラスの上だから、小さな寄付ではある。だが生徒の心の中では大きなものとなっていると思っている。(一高校教諭)

報告をいただきました。
岡山・広島のパワフルな皆さんからは、明日からの活動へのエネルギーをいただきました。

主管の山口の会の皆さんには、企画・準備と大変お世話になり、懇親会では山口のお

約束「ふぐ刺し」と廣重先生(ご協力いただいている地元内科医)差し入れの地酒を堪能させていただきました。

来年もぜひ参加したいとお声をいただき、頑張る勇気をいただいで、山口を後にしました。(山村詔一郎)



植経験者によるフットボール大会の開催を自らの使命と二人は考えたからです。これからも京極さんの志を受け継ぎ活動していきます。全国の皆様のご協力をお願い致します。(移植者フットボールクラブ 水野誠也)

編集部より
昨年2月の第一回大会の様子を本紙225号にてお伝えしましたが、残念ながら昨年6月4日に京極健一さんは志なからご逝去されました。

共催イベント 北から南から

北海道釧路市
献血ルームオープン
仲むねみ解消に期待

昨年9月釧路に初めての献血ルームがオープンし、それまで骨髄登録が出来なかった日曜日にも登録受け付けが出来るようになりました。私たち釧路協会もこのチャンスを活かして、市民の皆様へ骨髄バンクを知って頂き、献血や

ドナー登録に協力して頂くこと、「いのちの輝き展」を「イオンモール釧路昭和サンコート広場」で1月20日から22日の3日間、イオンモール釧路昭和さん、献血ルームぶらつと946さんの御協力で開催致しました。

6歳で亡くなった三瓶彩子ちゃんの絵画や17歳で亡くなった小野寺君のメッセージ、ドナーさんと患者さんが移植後にやり取りしたお手紙など、32点を展示して、150名あまりのお客様にご覧いただき、ドナー登録も12名を数えることが出来ました。ここ数年、ドナー登録者数が伸び悩んでいた釧路ですが、この成果に気をよくしてこれから年に数回同じような催しを企画していきたいと思えます。(小川真理)

心の声

一人の生徒が1年生の11月に白血病を発症し、室蘭から札幌へと救急車で運ばれ緊急入院した。札幌の病院で治療を受けていたが、骨髄移植のドナーが見つからず、兄弟とも一致せずに抗がん剤投与に当たり、「どこかへと寄付しよう」と提案した。

様々な所への寄付の意見があつたが、その白血病で亡くなった生徒と同じように年齢が若いにもかかわらず、苦しんでいる人がまだいるから、「その人達の為に」と寄付することとなった。